

鹿児島県侵略的外来種カルテ

平成30年3月

ペットとして飼育されていたものが遺棄されて野生化しました。鹿児島県では重要防除種に指定され、奄美大島、徳之島をはじめ、県内各地で生息していると考えられています。奄美大島では、アマミノクロウサギなど希少動物の捕食が確認されています。ノイヌを増やさないために、現在飼っているイヌは最後まで責任を持って飼い続けましょう。また、適切な繁殖制限などを行い、飼い犬の適正な管理を行いましょう。

1 基本情報		
分類		
目・科名	ネコ目 イヌ科	 (環境省奄美自然保護官事務所 提供)
種名(亜種名)	ノイヌ	
学名	<i>Canis familiaris</i>	
環境省カテゴリ	重点対策外来種	
県カテゴリ	重要防除種	
由来	国外由来外来種	
侵略的外来種番付表	小結(島嶼)	
番付表掲載の理由	知名度の高い外来種	
その他カテゴリ (日本生態学会ワースト100/IUCN 世界の侵略的ワースト100)	—	
侵入・定着の状況		
自然分布域	ユーラシア(オオカミ (<i>Canis lupus</i>) を原種として家畜化された動物が野生化)	
県内初報告	不明	
県内への侵入の経緯	ペットとして飼育されていたものが遺棄されて野生化した	
県内の侵入分布	県本土各地、奄美大島、徳之島	
全国の侵入分布	全国各地	
生態学的特性		
生態	食性は肉食性の強い雑食で、野生動物を捕食する。 キツネの巣穴などを使って繁殖する。	
形態	ノイヌ化(野生化)しているのは中型犬以上の雑種が多い。犬種や個体によって形態・大きさ・色などは様々である。	
繁殖形態	繁殖期は通年で、産子数は1～15頭。	
生息環境	森林に生息する。	
特記事項	ノイヌ : 人間の生活に依存せず、自然環境下で完全に野生化しているイヌ。 ノライヌ: 特定の飼い主を持たないが、何らかの形で人間の生活に依存しているイヌ。	

(環境省奄美自然保護官事務所 提供)

2 影響	
被害の実態・おそれ ①生態系にかかる被害 ②農林水産業への被害 ③人の生命身体への被害	①アマミノクロウサギなど希少種・固有種の捕食。
県内で特に予想される被害	島嶼において、アマミノクロウサギなどの希少種・固有種の捕食。
被害をもたらしている要因 ①生物学的要因 ②社会的要因	①天敵の不在。 ②ペットとして飼われていたものの遺棄。
3 対策	
ノイヌとの関わり方	ノイヌはもともとペットとして飼われていたイヌです。現在飼っているイヌは最後まで責任を持って飼い続けましょう。 適切な繁殖制限などを行い、飼い犬の適正な管理を行いましょう。
見分け方	飼い犬と区別はつかない。なお、野生化しているノイヌは中型犬以上の雑種が多い。
見かけやすい場所・時間	基本は昼間に行動する。森林に生息する。
防除方法	箱わななどによる捕獲。
防除の取組事例	—
その他	—
参考資料・参考URL	国立研究開発法人国立環境研究所 侵入生物データベース https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/10160.html Nature of Kagoshima 鹿児島県自然環境保全協会 http://www.kagoshima-nature.org/category/back-number/